

定例記者会見（R6. 5. 27） 記者発表（市長発言）

さくら市長の花塚隆志です。

本日は、定例記者会見と早乙女桜並木の伐採木を活用した多機能ペンのお披露目式を開催するお知らせをいたしましたところ、報道機関の皆様には、ご多忙のところご臨席をいただきまして厚くお礼申し上げます。

今年は、新型コロナウイルスが5類になって以降の初めての春を迎え、多くの方が氏家ゆうゆうパークや道の駅きつれがわなど市内施設にお越しいただき、本来の活気が戻ったと実感しているところです。ところで、昨年は栃木県の誕生150周年として、その節目に多くの事業が県内各地で開催されており、そしてさくら市は、来年の令和7年3月

28 日に市制施行から 20 周年を迎える特別な年となります。この節目を迎えるにあたり、具体的に動き出しています。

実施にあたっては、形式的な式典を開催して終わりという、市役所だけの行事に終始せず、市民の祝賀祝典にすること、そしてこれまでの歩みに敬意を表しながら、明日に繋がり、将来を活かす取組を様々実行してまいります。

そこで、令和 7 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの 1 年間を 20 周年記念の年として、様々な行事を行い、新たに将来に繋がり大きく資する事業については記念事業として実施すること等を計画しています。この後更にお話ししてまいります。

この他に、令和 5 年度にふるさと納税寄付額が、過去最高の 6 億 2 千万円超となったことや地球温暖化に伴い、この夏も猛暑が想定されることから、

暑さから避難できる「涼み処」を設置したこと。

公益財団法人 B&G 財団（ブルーシー・アンド・グリーンランドざいだん）による「ふるさとゆかりの偉人マンガの製作と活用事業」の助成を受け、本市では歴史小説などでも度々戦国時代に運命に翻弄されるヒロインとして登場する足利島子を「郷土ゆかりの偉人 足利島子」として、生涯を史実に基づいたマンガ化にしました。

そして、記者会見とは分けて、今回制作の三菱鉛筆東京販売㈱さんがいらしていますが、本市で長らく愛されてきた早乙女の桜並木の伐採木を使用した多機能ペンを本日初披露いたします。

報道の皆様には、今後ともどうか親しく、新たな情報については折に触れて、ご周知頂ければ幸いです。どうかよろしくお願い申し上げます。

それでは、お配りした資料に従って発表に移らせていただきます。

まず始めに

(1) 市制 20 周年記念事業の実施についてです。さくら市は平成 17 年 3 月 28 日に旧氏家町と旧喜連川町が合併して誕生し、令和 7 年 3 月 28 日に市制 20 周年を迎えるにあたり、式典その他の記念事業を実施いたします。

市役所内では検討チームが立ち上がり、式典は翌 3 月 29 日土曜日に氏家公民館での開催を予定しております。

式典では 20 年を辿（たど）るだけでなく、子ども達や 20 歳の若人に「次の 20 年」を語ってもらうことや、市民・グループによるコンサートやダンスなど音楽芸術文化の発信等を中心に考え、一連の

日々を遥かな未来に確かに繋がる時にしたいと考えています。

市制 20 周年記念式典は 1 日だけですが、先ほども申した通り令和 7 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの 1 年間を 20 周年記念の年として、市主催事業はもちろんのこと、商工会、観光協会他、各種団体が積極的に今まで実施してきていただいた事業も費用面も含め支援して、記念行事としてより盛大に実施していただき、将来に繋がるようにと計画しています。

次に

(2) さくら市のふるさと納税の現況について  
です。令和 5 年度の本市へのふるさと納税寄付額が、令和 4 年度比 2 倍の 6 億 2 千万円超となり過去最高を更新しました。また、寄附件数も同比 1.7 倍

の2万8千件超で過去最高となりました。

寄付額増加の主な要因は、次の4点です。

1点目は、ニッカウヰスキーの返礼品の寄附増加です。こちらは市内の工場で作られるウヰスキーが人気で、PRパンフレットの配布やメールマガジンの配信等により、寄附者への周知拡大を実施したことが寄附につながりました。

2点目は、いちごの返礼品の寄附増加です。昨年度は新たな市内事業者にも協力いただき、在庫数の増加となりました。また、いちごの梱包方法や配送対応も改善したことで、寄附者からの高評価レビューが増え、新規の寄附獲得につながったと思われます。

3点目は、新規返礼品の掲載です。昨年度は新たに約100件の返礼品掲載を始めました。様々な返礼品を追加したことで、本市の新たな魅力をPRし、

寄附額の底上げができたと感じております。

4点目は返礼品を掲載するポータルサイトの追加です。昨年度は新たに4つ追加しました。多くのサイトで掲載したことで、本市返礼品の露出が増え、寄付額増加につながりました。

今年度も、更なる寄付額増加と地場製品のPRを進めてまいります。

続いて

(3) さくら市「涼み処」の設置についてです。

危険な猛暑が想定されるこの夏、危険な暑さの日には、エアコン設備が整っている市の一部施設を「涼み処」として市民に開放することで、熱中症予防や医療機関への負担軽減などを目的に、市民の安心安全につなげたいと考えております。

最初はエアコンが設置されている市役所を含む

10の公共施設を「涼み処」として開放します。

今後は、公共施設以外にもさくら市「涼み処」の趣旨に賛同してくださる民間商業施設にも声をかけるなど、引き続き賛同してくださる施設を募集追加し、熱中症になる前に避難できる場所を更に確保したいと考えております。

最後に

(4)は3,000部を製作したふるさとゆかりの偉人マンガ「足利島子」です。

足利氏島子は、室町時代関東を治めていた「鎌倉公方」足利尊氏の子・基氏の血筋を引き千葉の方で活動をしていた小弓公方の家に生まれた姫です。

戦国時代末期、喜連川を治めていた塩谷義上（しおのや よしひさ）のもとへ嫁ぎます。

小田原合戦後、島子は嫁ぎ先の塩谷氏が豊臣秀吉

方に参陣しなかった事の申し開きと、足利尊氏からの流れを引き継ぐ由緒ある足利氏の存続を願い出るため、天下人となった豊臣秀吉と面会します。

面会により父や弟たちにより喜連川の地で足利氏が存続されることになりますが、逆に島子は喜連川の地を離れ、秀吉の元、京都へ行くこととなります。その後島子は出家して月桂院（げっけいいん）となりましたが、出家した後も、徳川家康の娘・振姫とともに会津に行くなど、天下人との関係を保ち、喜連川家存続に貢献します。このような知られざる足利島子の功績を多くの市民や児童生徒に知ってもらえるようマンガでわかりやすく紹介しています。

作成したマンガは、さくら市内の小学校5・6年生と中学校1年生に配布し、授業で活用するとともに県内図書館などにも配布いたします。

また、一般の方にもさくら市の偉人「足利島子」の周知と知名度向上を図るため、500部を販売用として一冊 600円でさくら市ミュージアム―荒井寛方記念館―および喜連川・和い話し広場にて、販売を行っております。

以上をもちまして、私からの記者発表とさせていただきます。報道機関の皆様には、今後とも「さくら市」の事業を報道いただき、市民に情報を提供する重要な役割を果たしていただきますよう、引き続きよろしく願いいたします。

## 早乙女桜並木の伐採木を活用した多機能ペンのお披露目式 市長挨拶

さくら市長の花塚隆志です。

自分の幼いころから、さくら市喜連川地区で桜の名所といえ、お丸山公園と早乙女の桜並木でした。

その早乙女の桜並木のソメイヨシノも 100 年の時を経て、老木となり、安全確保に懸念が生じたことから両側とも伐採を行い、現在は片側にジンダイアケボノを植栽し、2026 年春の再整備を進めているところです。

整備とともに地域に愛されてきた早乙女の桜並木の伐採木の活用方法を探ってまいりましたが、

「森のタンブラー SAKURA」小中学生に配布した「定規」そして今回ジェットストリームのグリップ部分に木を使った多機能ペンを本日会長の大

橋謙二（おおはしけんじ）様お越しいただいております三菱鉛筆東京販売株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：市川賢之）に依頼して作成いたしました。

三菱鉛筆さんは、ご存知の通り、間伐材や使い終わったウイスキー樽などを再利用し魅力的な文房具を多数作成した実績があり、早乙女の桜並木の木も素晴らしい形で今回生まれ変わりました。

今回初めて皆様にお披露目いたします、是非周知をよろしくお願いいたします。